

※注意※

この台本は鑑賞用です。

無断配布、無断転載禁止。

この台本を使い、音声作品を作ることは

有償無償問わず固く禁じます。

基本的に声優さんにお渡ししたままの状態の台本です。

制作の都合上、削除した箇所や言い回しが異なる箇所など

微妙な違いがあるかもしれません。

右側の欄は演技指示や行動内容、心情などを書いています。

音声と一緒に楽しみいただければ幸いです。

(※マーク箇所は先生の歪んでいる部分です。素で歪んでいるので、特別気にせず声をあてていただければ幸いです)

★真っ白い壁、床で囲まれた六畳程度の部屋でヒロイン、先生が倒れている

★目覚める
★目覚めたてなのでゆっ
くり

- ★先生、辺りを見回す
- ★少し動揺している

★ヒロインがいることに気がつく

★先生、ヒロインの顔をよく見て思い出す

★いしながれ たけちよ

★思い出すヒロイン

ん…あれ…ここは…？

僕、こんなところで何をして…？

真っ白い、何も無い部屋…？何で僕こんなところにいるんだ…？

あつ…僕以外にも人がいたんだ！君は…？

ん、もしかして…！君、よく保健室に通っているんじゃない？

今日は顔色がいいみたいで良かった良かった

君、僕の顔に見覚えはない、かな？

僕の名前は石流竹千代

君の学校の保健室の先生って言えば、思い出してくれるかな？

ああ良かった、覚えていてくれて！ 君もよく知っていると思うけど、僕以外にもう一人保健室の先生がいて、どちらかというそっちの先生の方が生徒の面倒を見ているから影が薄いんだよね、僕 あははは… ところで君はどこからこの部屋に入ってきたんだい？ 僕、気が付いたらこの部屋で倒れていたんだけど… そうか、君も僕と同じだったのか…困ったなあ 僕は就業時間が終わって校門を出たところから記憶がないんだ 一体どういうことなんだろう？ これって…監禁されてるってことなのかな…？ ！ ち、ちなみに！ 僕が君を誘拐したとかそんなんじゃないからね！？ そんなことしちゃったら犯罪だし…！ あ、怪しいかもしれないけど、信じて…！ 僕も、一刻も早く帰りたい気持ちはあるんだ 君だって、あまり帰りが遅くなってしまうと君の親御さんも心配しちゃうだろうし… でも…窓も扉も無い部屋だし…外に出ようにもどうしようもないよね… あ、机の上に何か置いてある 「横に置いてある小瓶の中身を全て飲んでください。全て飲まなければこの部屋から出られません」…？	※「思い出してくれたこと」ではなく、「自分のことを覚えていてくれたこと」に喜んでいる先生 ★ヒロイン「分からないです…私も気づいたらこの部屋で倒れていて…」 ★ハツとする先生 ※「そんなことしない」ではなく、「犯罪だから」という理由で行わないだけ ★手紙と小瓶を見つける先生 ★手紙を手にする先生 ★手紙を読み上げる先生
---	---

小瓶ってこれのこと？

1、2、3…10本もあるね

中身が何か書いていないのがちょっと怖いなあ

もしかして、ど、毒薬だったりして…

っ脅かすようなことを言っちゃったな、ごめんごめん…

でもこの小瓶の中身を全て飲まないとその部屋から出られないんだよね？

…うーん

この部屋から出たい気持ちは君も僕も一緒だ

うん、恨みっこなしだ

試しに僕と君とで一本ずつこの小瓶の中身を飲もう

で、二人共飲んでから残りの小瓶の中身をどうするか考えよう

ごく、ごく、ごくん…

んんん、何これ、栄養ドリンクみたいな味がする…？

変な甘さっていうのかな、正直美味しくはないね

うーん…

んっ…立ちくらみが

これ、度数の強いお酒だったのかな？

僕、これでもお酒には強い方なんだけどなあ…

君はまだお酒を飲むには早いよね

残りの8本は僕が全部飲むよ

ごく、ごく、ごくん…んっ

ごく、ごく…ごくん

ごく、ごく、ごくんっ

よし、全部飲めた！あー美味しくない…！

これで部屋から出られるんだよね？

一体どういう風に出してくれるんだろう？

★小瓶を手にする先生

★怖くなる先生

★真面目な先生

★小瓶の中身を飲む先生、ヒロイン

★考え込む先生

★媚薬の効果が現れる

★小瓶の中身を飲む

…っふう…体が熱くなってきた… もーこんな度数の強いお酒を飲ませるなんてひどいよ 飲んだのが僕で良かったよ、全く… ふー………… ん…つつ ん…？ って何で僕勃起しちゃってるの？！ え、どういうこと？僕どっちかっていうとお酒を飲むと勃たなくなっちゃ う方なんだけど… …も、もしかしてあの小瓶の中身って…お酒じゃなくて媚薬？！ ええええどうしようどうしようー！ いやいやでもこんなのあの子に見せたら絶対ドン引かれちゃうし！ なんでも、なんでもないからあ、心配しない、で… う…あ…、え…僕なんで倒れて…？ あ、ああ、心配しなくても…大丈夫だよ 苦しいとか…は無いんだ…寧ろ…んん…っ しょ、正直に言うね… あの小瓶の中身…お酒じゃなくて、媚薬だった…みたい それで、なんか、体がおかしく、なっちゃって… 頭と体がふわーって…なってる…	★体が火照ってくる ★媚薬が回ってきて、下 半身が熱を持っているこ とに気がつく先生 ★心の中の声 ★ヒロイン、先生の様子 がおかしいことに気がつ き心配する ★呂律があまり回ってい ない感じで ★先生、倒れる ★「寧ろ気持ちいいくら い」と言いかけて止める
---	--

で、でも君に性的なことを強要することは無いから！安心して！

★扉が開く音

何の音？

…扉？こんなところに扉なんて無かったよね…？

★ふらふらしながら扉に
近寄る先生

あ…つもしかして、これって出口かな！？よかったあ…！

★扉をくぐるもまた部屋
★部屋には布団が一組
敷かれている

…で、出口じゃない？嘘だあ…

今度はなにになに？

★布団に横たわる先生

あ、お布団だー…横になっちゃおー…

立ってるの辛くて…あはは…面目ない…

ん、あれ、枕に何か挟んである？

★手紙を見つけて手に
取る

…手紙か

えーつと…さ、「3回絶頂してください」い？！

「絶頂しなければこの部屋から出られません」…って…ええええ…

どっちが絶頂しろとは書いていないけど…

この場合、媚薬を飲んでいる僕が適任ってことだよな？

う、うええ…媚薬を飲まされたかと思ったら次は辱めを受けなきゃいけないわけえ？

で、でもこの変な部屋から出るためならするしか…無い…か

正直ムラムラしてしょうがないし…

★小声で独り言

あっうん、こっちの話

そうとなれば…僕が…自慰…をするしかない、か…

じ、自慰しているところみ、見ないでね、恥ずかしいから…

って、三十路のおじさんの自慰なんて見たくもない、か あはは…
君は音が聞こえないようにお布団被って、壁の方向いていてもらって
いいかな？

★自嘲気味に

まさかこんなことが起こるなんて…思ってもいなかったよー…
学校の生徒…しかもあの子と一緒になんて…
僕の脳内妄想もついにここまで来た？って感じだよ…

★心の声

んんっ…いたた…
ほっぺたつねつても目覚めそうにないかあ
やっぱり現実…ってことなのかな…

★頬をつねる

っふー…ふ……んっ…
近くに女の子がいる中で
媚薬が効いているのかすごく…大きくなっちゃってるし…
うー…罪悪感が半端ないよー…

★心の声

★先生、オナニーし始める

でも気持ちいい…っん…ん…っう…

あ…でも…あの子が媚薬をたくさん飲んでいたら…
僕みたいな風になっちゃってたのかな…
それはそれで興味がー…

って！僕、何考えちゃってるんだ…！
いくら媚薬が効いているからって、
考えていいことと悪いことの区別くらい…っ付けなくちゃ…
ん…っ僕は先生…っなんだから…！

ああ…あ…でも…っあの子がえっちな顔して…
自慰してるところ…想像したら…また…う…っ大きく…っ
あ…う…っん……っふ…っ
ああ…あああっ手が、手が止まらない…っ
僕って本当にだめな人間だ…！

んああ…あつあ…つあ…つ…つ つ　～～～っ！！

★ヒロインに聞かれない
よう、声を押し殺すように
射精

で、出ちゃった…
でもあと2回も…できるかな…？

んっ…つふ…つ…んんっ

★オナニー再開
★心の声

っあ…何も見ずに、聞かずに…自慰をするとか…っ
いつぶりだろう…っん…っ
若い時は…っんっ…頭の中で考えているだけで…っ
すごく興奮していたっけなあ…っ

っ…僕も無駄に歳を重ねてしまったんだな…っ
んっ…あ…んああ…ん…っ…

あの子はずっと布団を被っているけれど…
僕のこと、どう思っているんだろうか…
こっそり…っ…んあ…聞いてたりしているのかな…
っん…そうだったら恥ずかしすぎるな…
できるだけ…声をあげないようにしたいんだけど…っ
媚薬の効果が強いのか…っ声が漏れちゃう…っ

ん…うう…ん…
あつああ、ああつあつ…あああ…

…っ～～～っ…！！！！ああ…つあ…っ

★声を押し殺すように射
精

出た…出たけど…っあと1回…っ？
あともう1回出すなんて…できるのかな…

★心の声

あ…布団からあの子の足がちょっと出てる…
ふくらはぎ…すごく柔らかそう…

★ヒロインの方をちらっと
見る

ってあああ…だめだめ、あの子をえっちな目で…見ちゃ…

でもでも、自分で自分の気持ちをコントロールできそうにない…
僕があとちょっとでも理性が無かったら、強引にでも押し倒して
犯してしまいかねないくらいには…っ
性欲が…っおかしくなっちゃってる…！

あの子に…オナニーを手伝ってもらえないかな…？
もう、無理、自分を抑えられない…
あの子を無理矢理レイプをしてしまうよりは…いいよね…？

★心の声終わり

っ…！ あの一…その…、ごめん…
二回絶頂できたんだけど…っちょっと…その…相談があって…

★ヒロインに向かって話しかける

あと一回い…あと一回だけだから、ちょっとだけ…
手伝って…ほしいんだけど…だめ…かな…
僕の…ここを…手でしごいて…欲しいんだけど…

★二度も絶頂しているからか、顔も声もとろーんとしている

っ君に何か直接いやらしいことはしたりしないから…！
こ、この部屋から出た後は…絶対に忘れるし…っ
少ないかもしれないけれど慰謝料としてお金を渡すから…！
…ってあああそれじゃあただの怪しいおじさんだよな？！

★ヒロイン、先生のペニスに手をかける

う…ありがとう…嬉しいやら情けないやらで…僕泣いちゃいそうだ…

え…っど…どう言って説明すればいいかな…
ここを片手で握って…うん、そう、そういう感じ…
そうやって…んっ…握ったまま…手を…上下させて…

★ヒロイン、先生のペニスを慣れない手つきでしごく

そう…そのまま、もう少し強めて…
んっん…っんっあああ…っあ…
あ…上手…っん…っ…もしかして…君…んっ…こういう経験あったりするの…？っこんなこと言うなんてセクハラか…
っていやいや、こんなことさせてるなんてセクハラどころの騒ぎじゃないか…！

んっ…ああ…うあ…う……
本当にごめん…っ君の手を汚すような…っことをさせてしまっ…っ
…っううっなんて言って謝ればいいのか…っ

ああ…っあ…っ上手、上手だよ…っ自分でしごくより…
っは…ん…んぐ…っ…っはあ…っはあ…っはあ…っ！
んっん…っんっあああ…っあ…
気持ちいい…君の手…すごく…んっ気持ちいい…っ
あ…あああ、我慢っできなく…っなっちゃう…っ

ああっあああっ あっ出ちや、出ちや…っ！

〜〜〜〜〜っ！！！！っあ…っああ…っあ…っ…っ！

…っあ…あああ…出ちやった…

ありがとう…僕のわがまま聞いてくれて
君には頭が上がりそうにないよ…

って！太ももに精液かかっちゃってる！ハンカチハンカチ…！

よし…これでいいかな

は一……本当にごめんね…媚薬が効いていたからって
君にあんないやらしいことをさせてしまって…！
かくなる上は死んでお詫びするしか…！

うう…君は優しいね…うう…

動いたら暑くなっちゃった…ちよっとこの服、暑いんだよね
タートルネックじゃなくて、もう少し薄手の服を着てくればよかったな

…っあ…っ み、見た…？僕の首の…傷
あ、う、ううん、もう痛くないし、今はなんともないから！気にしないで…
ね？

え、ええと、昔ちよっと…ね！あは、あはは…

★射精

★媚薬の効果が薄まり、
理性を取り戻す

★ハンカチを取り出してヒ
ロインの太ももを拭く

※死ぬことに恐怖を感じ
ていない

★ヒロイン「大丈夫ですよ、
気にしていません」

★タートルネックの首元
を掴みパタパタと仰ぐ

★ヒロインに首元の傷を
見られる

★苦笑しながら誤魔化す

…いつまで君と一緒にいることになるか分からないし、隠していてもしょうがない、か… お、お恥ずかしい限りなんだけど、僕、ちょっとメンタルの方を病んでいてね… 君たちの間ではなんて言ったかな…ええっと…「メンヘラ」ってやつ、かな あ、あは、僕ちょっと心が弱いんだ 失望した、かな？ 保健室の先生っていう、不健康な生徒を見てあげる職なのに、先生が病んでいるなんて、わ、笑っちゃうよね！ …だから暑くても脱げなかったんだ 今でもストレスが溜まるとつい、リストカットしちゃってね 受け入れてほしい、なんて言わないから、どうか僕の体の傷のことは気にしないでくれるかな？ 自分でもやっちゃいけないな一って思いながらやっちゃってる部分もあるし、責められたり慰められたりするの苦手なんだよね、あ、あはは …ん、ありがとう うん、本当に気にしないで！ これは僕だけの問題で、このことで君に迷惑をかけたりはしたくないから …あーこれでようやく白衣も脱げるし腕もまくれる！ 媚薬の効果のせいか暑かったんだよね！ 自分でも見苦しいなって思うんだけど、あはは こればかりはどうしても、ね …っあ、汗臭かったらごめんね…！	★諦め ★無理して笑う ★袖をまくる ★左腕の二の腕から手首にかけておびただしい量のリストカット痕をヒロインに見せる先生 ★ヒロイン、「分かりました」と了承する ★ちょっと苦しそうな笑顔を浮かべる先生 ★先生、伸びをしながら ★白衣を脱ぎ、腕をまくる ★扉が開く音
--	---

あ、扉が出た よし、じゃあ先へ進もうか うーん出口じゃなくて…また部屋…か 今度の部屋は今までの部屋と打って変わって派手な感じだね まるでラブホテルみたいな… ん…ベッドに何かある？ なにになに… 「5 回中出しをしてください」って…、えええ？！ な、中出して、こ、こんな、君にしている行為じゃないよ！ こういうことはお互いに愛を深め合ってから、子供が欲しいなあって時にすることだよ うーーん…何か他に打開策は無いのかなあ… あ、そうだ、丁度良かった あったあった♪ ちょっと試してみたかったんだよね …いよつと！ んんー？だめだな、もう一回！ んーだめだ、固いな これが本当の「歯が立たない」ってやつ？歯は歯でも刃の方だけだよ… 壁紙が破れたりするかなって思ったんだけど、傷一つつかない この壁、材質なにでできてるんだろう？ あ、急にこんなことして驚かせちゃったかな	★次の部屋へ進む二人 ★部屋をぐりと見回す二人 ★手紙を拾う音 ★手紙を読み上げる ★軽く怒りながら (傍から見て可愛いと思われるような、プンプンしている感じ) ★白衣のポケットを漁る ★白衣のポケットからナイフを取り出す ★先生、真顔で壁にナイフを突く ★もう一度壁をナイフで突く ★刃(やいば) ★ナイフを携帯している先生に驚くヒロイン
--	---

急に壁をナイフで壊そうとするなんてびっくりしちゃうよね、ごめんごめん

もしかしたら壁を壊して外に出られるかなって思ったんだけど

…え、あ、ナイフを持っているって方？

えへへ…僕、ストレスが溜まるとつい自分に当たっちゃうから…

リストカット用にいつも携帯ナイフを持ち歩いているんだ

★絶句しているヒロイン

…もしかして引いた？

ご、ごめんね！こんなこと、事実だったとしても口に出すべきじゃなかったね

もう言わないから、やらないから、許して…

★ヒロイン「私も気が動転してしまって、すみません」

と、とりあえず、他に打開策が見つかるまで何かしら試そう

この手紙に書いてあることは、僕らの関係では絶対にしちゃいけないことだよ…

★二人に眠気

ふあ…あ…

何だか眠くなってきたきちゃった…

ベッドもあることだし、一旦寝ちゃおうか…

おやすみい…

★二人起床

おはよう、よく眠れた…かな？

僕の方はぐっすり！

君は…そうでもないみたいだね あはは…

んーそれにしてもお腹空いたし…うー煙草吸いたい…

なのに煙草どころかライターも持ってないんだよなあ…

いつもポケットに入れてたはずなんだけど、おかしいな…

ケータイも無いしさあ…

あ、冷蔵庫！何か食べ物あるかな？

★冷蔵庫を見つけ、向かう先生

——ってちょ、ちょっと待って！？

あれ、あれ見て！

昨日はこんな扉無かったよね？

え、これ出口…？ でも二つあるし…

扉に書かれている文字を見るからに…トイレとお風呂場だよね、これ

うん、やっぱりそうだ

律儀にお風呂とトイレを用意してるとか…本当にラブホテルじゃん
かー…

ま、まあこれで僕たちの身の清潔さと尊厳は保たれるし、良かったとい
えば良かったか

体が臭くなっちゃう前に、ちょっとシャワー浴びてしようかな
あ、君先に入る？

ん、分かった じゃあ先に入って…

…頭…痛い…い… う…

しまったな、薬が切れてきた…

あ…心配させてしまったかな

ええと…僕、結構情緒不安定だから精神科に通っていて…
向精神薬を基本的に毎日飲んでるんだけど、
その、毎日肌身離さず薬を持っているわけじゃないから…
今は薬を飲みたくても飲めなくて…

多分この頭痛は薬を飲んでいないことによる離脱症状なんだろう

ごめん、今後精神的に不安定になってしまうかもしれない
君になるべく迷惑はかけたくないのだけれど…

★ヒロイン「どうしました
か？」

★先生が指を指した方向
の壁に扉が二つある

★扉には WC、bathroom
と書かれている

★扉を開ける

★ヒロイン「先生お先にど
うぞ」

★先生、激しい頭痛に襲
われその場にうずくまる

こればかりは気合や根性でなんとかできるものじゃなくて…本当にごめん…

もし君に迷惑をかけることになってしまったら、叱ってくれると嬉しいな

早くこの部屋から出られる手立てを見つけられるように、僕も頑張るね

★ヒロイン「分かりました」

★お風呂に入る先生

ふーさっぱりした

アメニティも充実しているし、お風呂も広いし…部屋から出られないと
いうことを除けば普通のホテルだよこれ…

あ、タオルは二人分あったし、シャンプーは男女別の物が用意されて
いたよ 君も入ってきなよ

★独り言

しかし…本当にどうということなんだ？この部屋…

考えれば考えるほど、分からなくなる…

部屋を移動すると前の部屋へ戻る扉は消えるし…現実の物理法則を
無視しているとしか思えない…うーん…

それにしても「5回中出しをしてください」…か…

きっと本当にこれを遂行しない限り出られないんだろうなあ…

困ったなあ…

僕は良くて君が嫌だろうしねえ…

★ヒロイン「先生はいいんですか？！」

っ あ、あ、いや、冗談だよ！うん、冗談冗談…

★慌てる

こんなこと誤魔化しようがないか…

★長い沈黙

正直に言おう、君は…僕の好みの女の子なんだ
君、可愛いって周りからよく言われるでしょ？

★ヒロイン「ええええ！？」

まあそれは置いておいて！

その、もし、君と僕とがセックスしなきゃいけなくなった時に備えて…

練習、しておく…？

★ヒロイン「練習とは…」

え、えと、軽いことから始めようかなって思って
い、いや、二つ目の部屋で自慰を手伝ってもらっておいて何を言うん
だ！って話だけでも！その…ええと…

僕と…キス…してくれる？
だ、大丈夫 僕には現在恋人も伴侶もないから浮気の心配は無い
よ！
君は…もしかして恋人がいたりするのかな？

ふふ、そっか 分かった

それじゃあ、…キス、するよ… 目をつぶって？

ん…ちゅ…っ

★軽くキス

っへへ…なんか、ドキドキしちゃうな
もう少しだけ…練習していい？

★照れる先生

ん…ちゅ…ちゅう…っん…ふ…
舌…入れてみてもいいかな？

★一回目より長めにキス

ん…れるっちゅ…つれる…じゅ…れる…っん…ふ…
ちゅ…ん…つれる…っぷはっ

★ディープキス

心臓、ドキドキしてうるさいや…あはは…
おじさんがこんなにドギマギしてるとか、笑っちゃうよね

う、うん！これで何があっても大丈夫な気がしてきた 僕は、だけど…

明日になったら今日みたいに扉が増えているかもしれないし！
そうとなれば寝て起きてみるしかないかな
今全然眠くないけど！

時計が無いから時間感覚が分からないんだよなあ…
今が夜なのか昼なのか…ケータイも無いから確かめようが無いし…

せめてどのくらいの時間が経ったのか分かるようになるといいんだけど

あ！そうだ、確かお湯の冷める温度で時間って計れたよね？
お風呂のお湯で上手いこと時間を計れないかなあ

って…僕、数学苦手だったんだ…
あは、あははは…学生の時にもっと勉強しておけばよかったなあ

ベッドとお風呂とトイレ以外何も無い部屋ですることといえば、お喋りくらいしか無いよねえ
眠れるまでちょっと喋ってようか

あ、そうだ すっかり忘れてた 僕お腹が空いてたんだった

冷蔵庫の中にお弁当が二つ入ってた！わーい お喋りしながら食べよ食べよ
ただ、飲み物が媚薬入りの小瓶しか無いから、喉が乾いたら我慢して媚薬を飲むか、お風呂場から水を汲んでくるしかなさそうだけど…
ちょっと抵抗あるよねえ…

あ、そうはずっと話そうと思っていたことがあるんだ
実は君のクラスには僕の甥がいてね 兄の息子さんなんだけど

そう、僕と名字が一緒だから分かるよね それに顔も似ているし ふふふっ
いいなあ、甥は…君と一緒にのクラスで

あ、えーと学生の頃に戻ってみたいなーって
学校を卒業したのなんてもう十年も前だもんなー
君となら話が合いそうだし、一緒にのクラスだったら仲良くなれそうだし！

★先生のお腹の音が鳴る

★先生、冷蔵庫を開ける

★ご飯を食べ終わり、談笑

★ヒロイン「あ、もしかして…！」

★ヒロイン「何ですか？」

★先生、ちょっと慌てながら

で、その甥ってさー、すごく生意気で、でもめちゃくちゃ頭の回転が早いから僕なんか全然舐められてて…………

んーいっぱい喋り尽くしたなあ
お互い眠れそうな感じだし、寝てみようか
おやすみ いい夢を

…ん、おはよう
君はよく眠れたようだね
僕はというと…薬を飲んでいないからか寝つきが悪くって…ちょっと体調が悪い感じなんだ
大丈夫、まだ…平気…

そうだ、扉… 増えていたりしないかな…

…そんな都合よく増えていたりなんてしない、か…

食料は…

冷蔵庫の中身は昨日から変わらず…
僕らが食べた分だけ減ったままだ
もしかしたら、僕たちが眠っているうちに追加されているかなって思っていたけれど、甘い考えだったね…

どうしよう…僕たち、ここで死んじゃうのかな…
でも、あのまま現実で、学校で、毎日辛い思いをするより、全然いい、か…
っ…あ…だめ、だめだだめだだめだ、…悪いこと、考えちゃ…
〜〜っ！！

★先生の声、フェードアウト

★長時間喋り尽くし、眠気が訪れる二人

★就寝

★起床

★先生、ちょっとげっそりとしている

★壁に目をやるも、昨日と変わらず風呂とトイレの扉のみ

★冷蔵庫を開ける

★冷蔵庫を閉める

★深刻そうに独り言をぼそぼそと呟く先生

っ——… つん… ふ———っ …ちょっとは気が紛れた あ、あは、ちょっと、辛い記憶がフラッシュバックしちゃって… 薬を飲んでいないせいか、他人がいるっていうのに自制心が効かなくて…リストカットなんてしちゃった… 僕は本当に悪い子だね…はは… 君に…叱ってもらいたいな… 歳下の女の子に叱ってもらえるとちよつとしたご褒美だし… あは、あはは…何言っちゃってんだろ僕 ん？…僕が何を思い出してしまったかって？ 君は僕が何で辛がっているのか、気にしてくれるんだ…くすくす 僕が辛くなってしまったのは…君が… 君がクラスメイトの男の子と仲良さそうに喋っているところを思い出しちゃったら、つい何もかも嫌になっちゃって、腕を切りたくなっちゃったん、だ… あは、あはははは！言っちゃった…！ 実は…僕、前から…保健室で君をひと目見たときから… 君のことが好きだったんだ… あはは、ダメだ、自分の気持ちも口もコントロールできないや… …薬が完全に切れてしまったのは久々だからなあ… あ、でもここに監禁したのは僕じゃないよ、それだけは信じてほしいな んっ… …リストカットをやめられない理由は頭では分かっているんだ 人間は怪我をしたりした時に痛みを感じるだろう？ でも痛みは人間にとって苦痛だ だから痛みを感じた時に鎮痛作用として脳内麻薬なんて呼ばれているβエンドルフィンが脳から出るんだ βエンドルフィンは鎮痛作用の他に多幸感をもたらしてくれる	★白衣からナイフを取り出し、手首をナイフで切る先生 ★元気無さそうに ★乾いた笑い ★もう一度腕をナイフで切る先生 ★ベータエンドルフィン
--	--

だから、辛い時にリストカットをすると、痛みより気持ち良さの方が勝ちちゃうんだ
おかしい話だよな…人間の欠陥なのか
それとも人間が猿から進化していくにあたって必要な能力だったのか

って、そんなことは君にとってはどうでもいいよね あはは…

あー…好きだ、好きだ、好きだ…
君の髪の毛も、声も、僕より小さな体も、僕を心配してくれるところも、
全部全部好きだ…
リストカットの痕を見ても気持ち悪がったりせずに、ありのままを受け止めてくれる君が…大好きだ

もう、もう…自分を我慢できない…

こんな変な部屋に閉じ込められた時はどうなることかと思ったけど、
絶好のチャンスだったんだね…
大丈夫、君に危害を加えるようなことはしないよ
ね？だから安心して
君のことは絶対に、命をかけてでも幸せにしてみせるよ

僕は君のことが好きだ

僕と家族になってほしいんだ
ねえ、お願い 僕のお嫁さんに…なって？
僕、昔から家族っていうものに憧れていたんだ
君には僕のお嫁さん役がぴったりだよ

僕のこと、好き？

僕のこと、好きって言って…

もう一回…聞かせて
そんな緊張しないで、にっこりと笑って僕に
好きだって言ってほしいな

ふふ、んふふふっ！嬉しい、嬉しいなあ

※徐々に病んでいることを隠さなくなっている

★先生、ヒロインのことを抱きしめる

★囁くように

★ヒロインの目をまっすぐに見ながら

★ヒロインを抱きしめながら

★ヒロイン「え…？」

★ヒロイン、恐怖を感じ強張った顔で好きと言う

★ヒロイン、無理矢理作った笑顔で好きと言う

ねえ、僕とセックスしようか？

5 回中出しをすればこの部屋から出られるんだよ？

この部屋に居続けるのは、君にとっても僕にとっても辛すぎる

ご飯も無いし、煙草も吸えないし、薬も飲めないし…

あ、でも命令に背き続ければ、君とずっと一緒にいられるっていうのはいいことだよな！

…でも、君は…今の状況をどう思っているんだろうなあ？

…僕がそんなことを考えても仕方がないこと、か

僕、頑張って君のこと気持ちよくさせるから、さあ

ね？…しょ？

昨日みたいに…キス…しよっか

ん…ちゅ…っん…ふ…

ちゅ…ふ…これは練習じゃないから…力まないで…

ちゅ…ちゅ…ん… ふは

ああ…火照った顔、かわいい…

それじゃあ…入れても痛く無いように…ここをたっぷりほぐしてあげるからね

ん…じゅうう…じゅっじゅううう……っちゅ…っつぷは…

ん…れるっ…れる…っちゅ…れる…れるれるれるっちゅううう…

ちゅっ

れるっれるっうっじゅっじゅううっじゅっ

んっれるっ…っれるっれるっれるっ…ん…ふはっ

愛液…すごくあふれてきた

これなら…入れても大丈夫かな

入れちゃう…よ…っ？

★先生、ゆっくりとヒロインを押し倒す

★耳元で囁くように

★キス

★ヒロインの下着を脱がす

★ヒロインの秘部を舐める

★先生、ズボンを脱ぎ下着を下ろす

ああ…入った…僕の物…全部…君の中に…
夢みたいだ…

今までずっと妄想していたことが、全部本当になってしまうなんて…
本当に夢の中みたいで…っああっ…頭がおかしくなっていしまいそうだ

あっ…はっ…はっ…っん…
っんっふ…っふ…っつ、っつあ、あ、っん…
あっあ、あっあ、あああっ、あ…っん…っうっ…

出ちやう…出ちやう…！んっちゅっ…っんふ…
キスしたまま…っちゅ…っ中に出させて？

ん…っ！ちゅ…っんんっんっんっ…！！～っ！！

あは…あっという間に出ちやった…
まずは一回…っと…
このままノンストップで続けるから…ね？

…あ、そうだ、まだ媚薬のストックは残っていたんだった

うん、10本丸々残ってた
君もそんな辛そうな顔をしながらセックスするなんて嫌だろう？
僕と一緒に5本ずつ媚薬を飲んで…気持ちいいセックスをしよう？

ごく…ごく…ん…
この味も慣れると美味しく感じるものなんだね…

んふふっ回ってきちゃったね
さて、続きをしようか

あっ…はっ…はっ…っん…
っんっふ…っふ…っつ、っつあ、あ、っん…
あっあ、あっあ、あああっ、あ…っん…っうっ…
すごい…っあああっ、頭、ぐちゃぐちゃあ…っつ
ああっあああ、っあっ…！
君も、腰をくねらせて…っ気持ちよくなっちゃってるんだね…っ
すっごくいやらしい…！

あっあ、あああっあああっ！！
ん…っ…っ～～～っ…！

あーあ…もう…出ちやった…

★ピストンをしながら喋る

★射精1

★冷蔵庫を開ける

★ヒロイン、顔を強張らせながら媚薬を飲む

★ピストン

★射精2

媚薬の効果、すごすぎ…
君のこども、ぎゅうってなって僕の物を離そうとしないんだもの
すぐ出ちゃっても仕方がないよね…

はい…もう一回…っん…っ
ああああっ…あ…もう折返しだよ？
でも…あと三回も…っ君の中に出せるんだと思うと…
すごく！…っ！嬉しいよ…！

あっあ、あっあ、あああっ、あ…っん…っうっ…
ん…っ君の中、気持ちいい…っ気持ちいいよお…っ
僕の精液が…っ君の愛液が混ざっちゃって…っ
すっごくいやらしい音立てちゃってる…っっ

ん…っ…っ～～～っ…！あああっ！

うわあ…すごい、すごいよお…
僕の精液、君の中にたっぷり入っちゃってる…

媚薬がまだあれば飲みたいんだけど…さっき飲みきっちゃったしなあ…

あれ？さっき全部媚薬を飲みきったと思ったんだけど…
くすくす、本当にここは不思議な部屋だなあ

媚薬がまた 10 本追加されていたよ また 5 本ずつ飲もうか
ね？ ほらほら、遠慮しないの

もう、しょうがないなあ
僕が口移しして飲ませてあげるから、飲もう？
ごく…んっ…ちゅ…っ

ああ、溢したらもったいないよ ほら、全部飲んで？

んっ…ん…っん…っ ちゅっ…ん…

んんっ僕のここ、媚薬を飲んだらびくんって反応しちゃった

これだけ媚薬を飲んじやったら…
本当に頭がおかしくなっちゃうかもねえ…

★ピストン

★射精3

★冷蔵庫を開ける

★拒むヒロイン

★媚薬を口に含む先生
★ヒロインに口移しをする
も、ヒロインは全部飲まず
唇の端から媚薬をこぼし
てしまう

★もう一度口移しをする

ふふ……また僕の…入っちゃうよ～？んっ… あはは…僕の入れたら…君の中に入ってた精液、こぼれちゃった… やーらしーい… んっ…ここに入ってる精液…かきだすみたいに…動かしてあげるね？ ほら…っほらほらっ…っもっと喘いで？声出して？ 僕の物で気持ちよくなって？ うん、うん…いいよっ…もっと…っ我慢しないで？ ん…っあ…っ ああっ、ん…かわいいい…好き…大好き… ああっあああっ…大事にしたいのに…めちゃくちゃにしたいくなる… ん…っふ…っんん…っあ…っんっああっ…んんああ…っ あ…っあ…っあ…あああっあっ…ああっ あああああっあああっ！ んっ四回目…！もう…こんなに出しちゃったんだ	★挿入 ★ピストン ★射精4
ふふふ、これで最後の中出しにしてあげるね… 君が僕のお嫁さんになれるように、孕んじゃうように… 精液が子宮の奥にまで届くように奥で出してあげるねえ あ、そうだ…さっきした話覚えてる？ 脳内麻薬、β エンドルフィンの話 媚薬を大量に飲んだ上、手首を切ってセックスなんてしたら最高に合理的で気持ちがいいに決まってるよね くすくす、心配しなくても君の手首を切ることは絶対にしないよ 極力、君の嫌がるようなことはしたくはないんだ、僕 ただ、僕のズタズタな左腕にもう一本線を引くだけだ 簡単なことだろう？ ぐ…っ …ん…あ…ああ、…ああ…あはは… よし…このまま…痛いまま…君の中にもう一度僕の物を入れるね ああ…っ気持ちいい、気持ちいい…っ！ 大好きな君とこうして自分の身も心も隠すことなく さらけ出してセックスできるなんて！夢みたいだ！ もう僕を隠したくなんてない そのままでいたい	※「極力」というだけで、 する時はする ★ナイフで左腕を切る ★挿入 ★ピストン

そのままの僕を受け止めてほしい…！
君は…受け止めてくれるよね？

あああっ…っ…っつああっつ…んああっ…
好きだ、好きだ好きだ…君が…好きだ…

…っ…っ！ああああああっ！！

出す、出すよっ奥に、子宮の中まで…っ！僕の精液…！

〜〜っ！！あ、っあああっあ、っあああっつ…！

はっ…はっ…はっ…はっ…

あは…本当に五回も中出ししちゃった…

★射精5

★息切れ

★ヒロイン、先生着替える

あ…扉が…開いた？
今まで見てきた扉とは全然違う…

君とずっと一緒にこの部屋にいけないのはちょっと残念だけれど、
現実の世界へ帰ろうか

じゃあ…行こうか

★扉を開け、外に出る

現実には、元に戻って来れたんだ…

ん、あれ、ここは？

…何で僕たち神社にいるんだろうね？

★後ろを振り返るも、そこには扉も白い部屋もなく、
神社の鳥居だけがあつた

あいたた、腕切ったの忘れてた
後で手当しなきゃだなあ…
白衣が血まみれになる前になんとかしないと…

★リストカットした部分が
痛みだす

ん？なあに？

あはは！こんなちっちゃい絆創膏じゃ傷一つ隠れないよ！

でもありがとう、君は本当に優しいな…
もっと好きになっちゃうよ…

もしもし？おはよう

あはは一寂しくて、ついつい君がどうしてるか気になっちゃって
土日は君と会えないからすごく寂しいよ

え？君のケータイの電話番号、何で知ってるかって？
保健室の先生なんだから、それくらいは知ってて当たり前だよ
生徒の連絡先くらい簡単に調べられるからね

薬はちゃんと飲んでるよ、心配しないで
僕だって大人だ、君に病んでいるところばかり見せて
心配をかけてしまっっては面目丸潰れだ

それに…君とあんなことがあってからは、リストカットする回数が格段に
減ったんだ
精神的安寧…ってやつ？を得たからかな？
薬より効果がある気がするよ

ねえねえ、今日君は何をする予定なのかな？
僕、夕方いっぱいまで仕事なんだけど、仕事が終わったら…君さえ
よければデートなんてどうかな？
喫茶店でお喋りでもする？それともドライブがいい？
僕、車の運転あまり上手じゃないんだけど、君のためなら頑張る
よ！

★ヒロイン、切り傷用の小さい絆創膏を先生にあげる

↓続きます

★エピローグ
★努めて明るい感じで
★ヒロインの電話に着信
先生から電話

※薬を服用しているため
以前程病んでいないが、
言葉の端々から束縛や
狂気を感じる

それとも…ホテルがいいかな？

あはは、なんてね！冗談だよ！

おっと、そろそろ仕事の時間だ じゃあね

大好きだよ

★囁く感じで

★囁く感じで